

10月25日

わだおかつ子

号 外

重点目標「一歩ふみだす子」

合唱交流会・6年生の今と未来を歌い上げた『心の砂時計』

10月21日、桜が丘学園合唱交流会。本校6年生が歌う曲は『心の砂時計』。交流会のトップバッターとしてステージに立つと、曲紹介の中で大井亜依更さんがこんなふうに語った。「和田岡小は各学年1クラスの学校です。同じクラス。同じクラスメイト。6年間、このメンバーと学び、遊び、笑い合うのが、私たちにとって当たり前の日常でした。この日々が、このままズッと変わらず続いていけばいいのと思います。しかし、卒業すればそんな日々も一気に変わってしまいます。後期に入り、少しずつ寂しさも感じるようになってきました。」ズッと単学級で兄弟姉妹のように過ごしてきた子どもたち。彼らが卒業の日を意識して初めてもらした本音に、心を打たれた。

マスクをはずし、学級担任のおおらかな指揮に合わせて、子どもたちが歌い出すと、シャッターを切る指が震えた。そして、ファインダーをのぞく視界もくもった。子どもたちの透き通った歌声に乗せた「卒業なんてまだ先のことだと／思っていたのに／今日がその日なんだね」という歌詞が、私の心を半年後の「その日」へと、さらって行ったからだ。歌はこんなふうに続いた。「当たり前の日々／当たり前の笑顔／明日から／当たり前じゃなくなる」歌詞にさっきの亜依更さんの言葉が重なって…泣けた。

でも終盤、歌は子どもたちを、その先の明るい未来へと誘っていく。「思い出す／共に過ごした日々／戻りたくなる日も／きっとあるけど／自分を信じて／未来を信じて／一歩踏み出そう」高らかに歌い上げた舞台から見渡す、中学校の広い体育館のフロアには、やがて子どもたちの大切な仲間となる桜木小の児童が座っていた。

「ねえ、全ての砂がこぼれ落ち「その日」が過ぎたら、あなたたちは桜木小の子どもたちといっしょに新しい未来へと一歩踏み出しなさい。それまでに6年生ひとりひとりが自分を信じて生きていけるような力を、きっと付けてあげるから」そう誓った。

校長 梅葉 紳介





交流会では桜木小6年生、桜が丘中3年1組が素晴らしい合唱を披露してくれました。そして、最後に参加者全員で記念撮影。6年生にとっては小学校時代の貴重な思い出の1ページとなったのではないのでしょうか。さて、6年生が歌った『心の砂時計』は期間限定でYou Tubeにアップさせていただきます。保護者の皆様には絆メールでURLをお送りしますのでご視聴ください。

5年生のリーダーとしての資質を磨いた観音山自然教室

10月20日、21日の両日、静岡県観音山少年自然の家において、5年生の自然教室が行われました。山頂ハイクに始まって、ナイトウォークラリー、2日目の沢登りという自然の家では「困難克服型」と呼ばれる厳しい活動に挑戦しました。その中で5年生の皆さんは、どんなことにも全力で取り組むひたむきさ、最後まであきらめずがんばるたくましさ、そして、仲間を思いやるやさしさを随所に見せてくれ、成長を実感させてくれました。自然の家の所員さんもそんな5年生のことを絶賛してくださいました。この自然教室での経験をこれからの学校生活に生かし、5年生が和田岡小の真のリーダーへと成長してくれることを期待しています。2日間お疲れ様でした。

